

4 施工

Q-44 フラットデッキの落下事故に対する対策はどのようにしたらよいか？

A

フラットデッキの落下は、人的災害を伴う場合があります。事故を未然に防止するため、「フラット指針」の記載事項を厳守し、安全性を確認して施工して下さい。

また、フラットデッキの敷込み時やコンクリート打込み時は、下階への立入り禁止措置を講じるなどの対策も必要です。以下に事故発生原因と対策を記述します。

原因	対策
1. 代表的な災害 1) 中間支保工の設置忘れ 2) 縦さん木の未設置によるフラットデッキ端部座屈 3) フラットデッキ型枠上に鉄筋等資材を仮置きする場合の補強計画不足または補強支保工等の未設置 4) 梁型枠および支保工の剛性不足（セパレータ未設置や水平つなぎ未設置等含む） 5) ホッパーのバルブ故障によるコンクリートの過大流出等、想定外の過荷重 2. フラットデッキ施工中の災害 1) 揚重後の仮置場での落下と荷崩れ 2) フラットデッキのかかり不足による落下 3) フラットデッキの接合不良や接合しなかった場合の落下 4) 開口部やフラットデッキ切断部からの作業者の落下 5) 雨水や雪で作業者が滑った場合の落下 3. コンクリート打込み時のフラットデッキの災害 1) 割付図作成に起因する場合（スラブ厚、板厚、スパン長さなど設計図書の見落としや支保工の記入漏れなど） 2) フラットデッキのかかり代不足による落下 3) フラットデッキの接合不良や接合しなかった場合の落下 4) フラットデッキの敷違いによる強度不足やかかり代不足 5) フラットデッキリブ切断部の補強忘れや支保工の掛け忘れ（構台杭、開口、斜め部など）	<ul style="list-style-type: none"> ・フラットデッキ敷設前および敷設後に割付図と照合する ・フラットデッキ敷設前および敷設後に側板型枠に縦さん木が600mmピッチ以下に設置してあるか確認する ・施工状況に応じて施工割増係数を設定する ・フラットデッキの上に直接重量物を載せないよう配慮する ・「フラット指針」の5.2 災害防止 参照 ・「フラット指針」の4.9 支持梁がRC造またはSRC造の場合の留意点 参照 ・フラットデッキ敷設前および敷設後に型枠のセパレータの取付けおよび緩みを確認する ・事前に打込み方法を検討し、使用する機材等の整備点検をおこなっておく ・事前に仮置場の安定性や施工を点検する ・RC造・SRC造の場合、梁型枠の耐力を検討する ・かかり代の基準は「フラット指針」の5.1 参照 ・梁とフラットデッキの接合方法はQ-34 参照 ・立入禁止措置を講ずる ・雨水や雪を除去する ・割付図作成後の確認とチェックバック実施 ・項目2.2) 参照 ・梁とフラットデッキの接合方法はQ-34 参照 ・割付図とフラットデッキ表示の確認 ・割付図との照合と補強などの確認

安全チェックシート等の活用も事故防止の有効な対策ですので、ご活用下さい。

参照：フラットデッキ工業会ホームページ <http://www.flatdeck.jp/>